

メーカーと協力した言語聴覚士養成校での補聴援助システム「ロジャー」の周知活動

佐藤俊樹¹⁾ 鈴木弘一²⁾

株式会社岡野電気¹⁾

リオネットセンター川口店¹⁾

埼玉福祉保育医療製菓調理専門学校言語聴覚士科¹⁾

ソノヴァ・ジャパン株式会社²⁾

【はじめに】

従来の伝統的な「赤外線補聴システム」「FM 補聴システム」に比べ、PHONAK 社のデジタル無線方式の「ロジャー」は優位性を持ち、多くの教育現場や行政・企業でも活用されている。しかし、養成校ではロジャーを体験する機会が乏しく、聴覚領域に進んでからロジャーを知る言語聴覚士も少なくないと思われる。今回、言語聴覚士養成校での授業の一環として、メーカーと協力して「ロジャー」の周知活動を行ったので報告する。

【対象】

言語聴覚士養成校 2 年生で『小児聴覚障害』を受講した学生 38 名と、3 年生で『聴覚系の構造機能病態Ⅱ』を受講した 31 名である。

【方法】

ロジャーの体験をする前に、補聴器についての講義を 1 コマ(90 分)行い、その中で補聴援助システムの有効性について学生に教えた。そして、次のコマの講義の一部で、メーカーの社員によるロジャーについての講演(40 分)とロジャーの体験(20 分)の時間を設けた。その後、学生たちにアンケート(自由記述)への回答を求めた。

【結果】

アンケートでは、「補聴器自体を見るのが初めてで貴重な機会だった」「ロジャーでは教室の隅からでも先生(話し手)の声が聞こえて驚いた」「将来病院や施設で聞こえにくい患者さんには補聴器を提案してみたい」などの感想が見られた。

【まとめ】

本活動は、聴覚領域を志望する学生の事前教育という側面のみならず、成人領域等のその他領域を志す学生にとっても補聴器・ロジャーの有効性について学ぶ、重要な機会であったことを示唆する結果であった。